

うつ病の重症度を評価するためのマイクロRNA

呼吸病態学 和泉弘人、精神医学 吉村玲児

利用分野

うつ病の重症度を客観的に診断することを可能とするエクソソーム内包マイクロRNAであり、薬剤による治療開始の判断や治療効果の評価に利用することが期待できる。

シーズ

少量の血液サンプルから得られたエクソソームを単離し、2種類のマイクロRNAの量的変化でうつ病の重症度を診断する新規の評価方法である。本技術は、血漿や血清に含まれる全マイクロRNAではなく、情報伝達物質として認識されているエクソソームに含まれるマイクロRNAを利用にする点に独自性がある。



ニーズ

わが国では100万人のうつ病患者が医療機関を受診している。しかしながら、その診断においては、医師が特定の症状の有無を評価する方法が実施されており、客観的な評価方法とは言い難い。さらに、うつ病の重症度を評価する客観的な評価方法のないのが現状である。

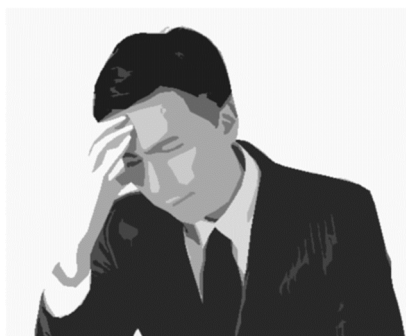
連携分野

エクソソーム内容マイクロRNAの測定技術を保有する企業との新規検査技術の開発。



知財保護

特願2023-047362



メンタルヘルス
対策にも貢献。



本学マスコットキャラクター
ラマディー



産業医科大学

産業医科大学 産学連携・知的財産本部

〒807-8555
福岡県北九州市八幡西区医生ヶ丘1番1号

問い合わせ先: 研究支援課
TEL: 093 (280) 0532
FAX: 093 (691) 7518
E-mail: chizai@mbbox.pub.uoeh-u.ac.jp